



No.871

2026 April

FREE

ご自由にお持ちください。



岐阜県の森林・林業

森のたより

中将姫誓願ザクラ
(国天然記念物)



開催日	行事名等	内容等	場所
			申込(問合せ)先/TEL
3月1日(日)~ 5月31日(日)	緑の募金(春期)	「緑の募金で進めようSDGs」をスローガンに家庭募金、企業募金、職場募金などを行います。	JR岐阜駅
		4月4日(土)に岐阜市「道三まつり」で、岐阜市緑の募金委員会とともに街頭募金を行います。	公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 TEL: 058-273-7577
4月5日(日)まで	岐阜県緑化運動 ポスターコンクール 入賞作品 展示	令和7年度岐阜県緑化運動ポスターコンクール入賞作品49点をぎふ木遊館にて展示します。	ぎふ木遊館 TEL: 058-215-1515
		【ぎふ木遊館の施設案内】 ●開館時間: 10:00~17:00 ●入賞作品の観覧は、予約不要・入館料無料 ※ただし、木育ひろばの利用は、事前予約制で入館料(大人300円、高校生以下無料)が別途必要 ●休館日: 毎週水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌平日)	森林活用推進課 TEL: 058-272-8255



目次

CONTENTS

イベントカレンダー(一般向け) 2

令和7年度 岐阜県森林・林業合同発表会の開催 3

能登町への応援派遣 一年間を終えて! 4

現場に役立つ情報を集約! 「岐阜県スマート林業ポータル」始動 5

わが社の頑張るフレッシュヤーズ 6

地域の人 努力すれば近いところまでいける 7

ぎふの木使います! 8

伐採及び伐採後の造林の届出制度のお知らせ 9

シリーズ『ぎふ木育全県展開』⑩ 10

山の歳時記 248 スギナとツクシ 11

ぎふ木遊館通信 12

morinos ひろば紹介! 13

令和8年度「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用した事業の全体計画 14

木の香るぎふの施設 155 14

日中支援型グループホーム きずな 15

福祉型短期入所 きずな 15

森林と人を活かす知恵 159 種を撒き続ける 16

「見えないものに働きかける 森林環境教育という仕事」 16

研究コーナー 16

菌床シイタケの発生に及ぼす夏場の限界温度を把握して栽培管理に活用しよう 17

普及コーナー 西濃地域における林業普及活動について 18

スマート林業通信 52 19

国有林の現場から 114 20

林道業務におけるICT技術の活用について 21

イベントカレンダー(林業者向け) 22

市況 22

今月の表紙

願成寺(岐阜市大洞)にある所伝では樹齢1000年を超える桜。ヤマザクラの突然変異種で、25~30の花弁をもつ八重咲の花を咲かせる。2008年に種子が国際宇宙ステーションに持ち込まれ、帰還後に発芽した桜は「宇宙桜」として話題となった。今も境内で見ることができます。

令和7年度 岐阜県森林・林業関係合同発表会の開催

岐阜県では、毎年、県内の森林・林業に携わる行政(国、県、市町村)、林業関係者、教育機関等が一堂に会し、日頃の林業普及活動や試験・課題研究等に関する実績ならびに成果についての発表会を開催しています。

今年度は令和8年1月30日(金)に実施し、会場のわかくさ・プラザ(多目的ホール)には145名の多くの方に参加して頂きました。



発表会場の様子

◇林業普及活動実績発表
課題―忌避剤はどこまで通用するか?、ニホンジカ生息密度とスギ食害発生状況の関係

(郡上農林事務所)
郡上農林事務所では、忌避剤散布を実施した再造林地の食害状況について、調

査・分析を実施しました。その結果、被害発生は生息密度より、下層植生衰退と積雪深に起因することが明らかになり、忌避剤から柵防除への転換が有効な地域を郡上市、森林組合などの関係者へ助言を行った普及実績について発表がありました。

◇農林高校生課題研究発表
課題―間伐の実施

(恵那農業高等学校環境科学科3年)
恵那農業高校では、実験林が適正な密度になるよう管理目標を胸高断面積合計「50㎡/ha」に設定し、毎年間伐を実施しています。

今回、事前に安全な伐採方法を学んだ後、間伐を実践し、間伐前後の森林の状況を比較するなど、管理実習の様子が発表されました。



恵那農業高校の発表状況

◇森林文化アカデミー課題研究発表
課題―架線集材の技術継承について

(森と木のクリエーター科2年)
架線集材は急峻で複雑な日本の地形に適した集材方法だと考えられています。近年は架線技術者が減少し、その技術継承が課題となっています。

そこで、実習を通して学んだ架線集材の技術について、分かりやすい手順書の作成過程とその内容について紹介されました。



森林文化アカデミー学生の発表状況

◇森林研究所研究・成果発表
課題―岐阜県内で伐採されたコウヨウザンの材質特性

(岐阜県森林研究所)

近年、早生樹として注目されているコウヨウザンについて、今後の利用用途を検討するため、県内で伐採したコウヨウザンから小試験体および住宅等で使用される実大サイズの部材を採取し、曲げ強度性能や乾燥性等の材質特性を調査した結果が発表されました。

◇国有林野業務発表

課題―地上レーザ計測と航空レーザ計測を組み合わせた収穫調査の効率化

(中部森林管理局 飛騨森林管理署)
森林資源調査で使用する地上レーザ(OWL)計測の運用上の課題として、下層植生が繁茂した場所や樹高測定に関して精度が低いことが明らかになっています。

そこで、航空レーザ計測を組み合わせた調査方法や材積算出方法が試行され、その検証結果が発表されました。

◇岐阜県地域森林監理士活動発表

課題―Exciting!
白川町の岐阜県地域森林監理士

(岐阜県地域森林監理士)

白川町で地域森林監理士として働くに至った経緯や、民間事業者で働きながら、現在、町森林活用センターで取り組んでいるGPX導入による境界明確化、Gクレジットのプロジェクト計画等の活動が紹介されました。

どの発表にも参加者からの質問や感想があり、関心の高さが伺えました。

熱心に聴講頂いた参加者の皆様、この日のために準備をいただいた発表者の方々にこの場をお借りして、お礼を申し上げます。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-351-2603

森林文化アカデミー
森林技術開発支援センター 普及企画係まで



能登町への応援派遣 一年間を終えて！

岐阜県では令和6年能登半島地震の発生直後から被災自治体の一つである能登町への応援派遣が行われており、令和7年度も井尾 匠良さん、蒲 泰英さんが派遣され、復旧にご尽力されました。お二人に1年間を終えての感想をお聞きました。

◆派遣が決まった時は

(井尾さん)

林道業務は未経験で力になれるか不安でした。ただ災害復旧というあまり経験できない業務であったため、自分にとって良い機会ですし、能登町の一日でも早い復興のために努力したいと思いました。

(蒲さん)

林道業務は経験していましたが、災害担当はやっていなかったのが心配でした。行く前に当時の上司から図面や工法選定などの災害復旧に関することを教えていただき、実際に能登町で業務に活かす事も出来たのでありがたかったです。

◆能登町の状況は

(蒲さん)

能登町に向かうのと里山海道では、片側の路面が崩れていたり、大きなクラックが入っているなど、実際に見て改めて恐怖を感じましたし、被災箇所がとて多く、復興には時間がかかるのかなと思いました。漁業メインの町ということもあるかもしれませんが、漁港周辺の復旧は早いように感じました。



隆起した海岸を活用した仮設道
(路肩を土嚢で補強)

(井尾さん)

地震の影響により倒壊した役場周辺の住宅は解体が進んでおり、空き地が多いという印象でした。また、仮設

住宅も増え、避難所で生活をされている方はいませんでした。スーパーやコンビニなども営業しており、特に飲食店や居酒屋などは地元の方や県外業者の方などで大変賑わっていました。

◆職場と業務内容は

(井尾さん)

町には全国の自治体から約60人が応援派遣で来ており、農林水産課の林道担当には4名で、その内の2名が岐阜県からでした。業務は林道災害の復旧で、林道災害対象路線の48路線について一人当たり3、4路線担当し、利用状況の多い林道から優先的に工事を進めていました。



能登町農林水産課

(蒲さん)

私も林道災害の復旧で、4路線担当しました。コンクリートは、漁港やインフラ設備の復興に優先的に使用されるため、林道工事では極力、コンクリー

トを使用しない工法で設計する必要がありました。業者も手一杯で不落下になることもあり、復旧は中々進みません。また、詳細設計で精度の高い測量を行うと大半が重要変更の対象となり、再度現場写真の撮影が必要となるため、一日中外で作業することも多く、夏場は大変でした。



工事現場の様子

◆日々の生活は

(蒲さん)

役場から1.2kmほど離れたところにある仮設住宅に住んでいました。消耗品以外の生活に必要なものは用意されていたので生活に困ることはなかったです。休みの日は海が近いのでよく釣りに行きました。アオリイカが釣れます。金沢にもよく遊びに行きました。

(井尾さん)

3ヶ月や6ヶ月だけの派遣の方もおられ、こうした方の歓送迎会を含めると、たくさん飲む機会があるので楽し

かったです。海が近く、いろいろな魚も食べることができません。仕事終わりに派遣職員の方とご飯を食べに行ったりもしました。7月には、農林水産課の派遣職員で、2t近くあるキリコを担ぎ、あばれ祭りに参加しました。キリコは全部で40基ほどあり、町内を連なる風景は圧巻でした。



祭りに参加した交流職員

◆1年経験して

(井尾さん)

災害対応はあまり経験できない業務なので、被災状況や手順などを知ることができました。役場は窓口対応があり、自分の仕事以外にもすることが多く、大変であると感じました。今回の派遣で能登町の魅力も知ることができました。

(浦さん)

災害査定などの資料作成は市町村が行っていて、実際に自分がその立場となり、どれだけ大変な事を改めて知ることができました。また、能登半島の動脈となる道路は一本しかなく、そこが被災すると初動の遅れが発生し

てしまいます。岐阜県は東海北陸や東海環状などがあり、その点は恵まれていると思いましたが、代替道路の整備は改めて必要であると思いました。



本年1月、大雪に見舞われた町の中心部

◆今後の抱負は

(井尾さん)

日々学ぶことが多く、あつと言う間の一年でした。災害復旧というあまり経験できない業務を経験することができ、私自身のスキルアップにもつながりました。令和8年度から岐阜県に帰任しますが、今回の経験を活かしていきたいと思っています。

(浦さん)

令和8年度も引き続き能登町に派遣ということで、担当する路線を一つでも多く完成させたいです。また、町のイベントや祭りに参加して能登町を少しでも盛り上げていければと思います。

現場に役立つ情報を集約！ 「岐阜県スマート林業ポータル」始動

岐阜県では、森林・林業の現場におけるICTやデジタル技術の活用を推進するため、スマート林業に関する情報を一元的に入手できる情報ポータルをスタートしました。

ポータルの特徴

◆実務に直結する情報を体系的に掲載

森林・林業に関するオープンデータなどデータの入手・閲覧方法、支援制度、各種マニュアル、統計資料、研修・見学会情報などを分かりやすく整理して掲載し、必要な情報へ迅速にアクセスできます。

◆林業の最新技術を多数紹介

ドローンや3次元計測、GISなど、急速に進むスマート林業の実証事例などを多数紹介しています。

今後も掲載内容の充実を図り、スマート林業に関する最新情報を継続的に発信します。是非ご利用ください。



岐阜県スマート林業ポータルはこちら→

<https://www.pref.gifu.lg.jp/site/smart/>

ポータル画面イメージ



●森林経営課【詳しい内容を知りたい方は】TEL 058-272-1111(内線4387)スマート林業推進係まで

わが社の頑張るマレッシュヤーズ

【有有限会社 根尾開発 (本巢市)】

福本秀平さん 2023年入社 (関市出身)



左:福本さん 右:小沢代表取締役

【林業就業のきっかけ】

前職では、室内作業が大半の仕事をしていました。その際にいつかは、屋外で働く仕事や体をもっと動かす仕事、そして自然にかかわる職業に就いてみたいという事を漠然と思っており、以前の仕事を退職し転職するきっかけで岐阜県という土地柄、周りには山が多く、そこから調べるうちに林業を知りました。

自分の希望していた点とも一致する部分も多く、重機やチェーンソー作業などにも興味が湧き、新しく挑戦してみたいと感じ就業を決めました。

【就業しての感想】

体力には自信のある方でしたが、実際に働いてみると想像以上の事ばかりで山を歩くだけでも身体への負担が大きくとても驚きました。業務の面では、一つ一つの作業が危険と隣り合わせで、はつきりとした正解の形がない仕事でもある事を個人的に感じ、常に考えながら作業する事を現在実感しています。

その中でも作業を終えた現場を見ると他の職種では感じるこの出来ない達成感がとてもあります。



伐採作業中の福本さん

【自信がついてきた仕事は?】

まだまだ失敗することも多いですが、伐倒作業において、自分の意図

する形で木を倒せることや状況に合った対応が出来ることが増えてきました。

育林造林業務では、機械作業や機械を使わない作業もあり、どの仕事もある程度スピードを求められる部分がありますが、その作業スピードも入社当初よりも早くなり自分の作業範囲も広く行えるようになってきました。



造材作業中の福本さん

【今後の思い】

林業作業の内、育林造林の部門に所属しており、未来の山を作るという工程に関わっていることを大変うれしく思います。

今自分が作業している現場が将来、「良い山になった」と言ってもらえるように日々、一つ一つの作業を真摯に努めていきたいです。

【今後の抱負】

3Kのイメージが強い林業ですが、現場からの声を発信して少しでも多くの人に林業に興味を持ってもらい、作業従事者が増えていくことに貢献できるよう頑張りたいです。

個人としても先輩方から常にいろいろなことを学び、一人前と言ってもらえるように努力していきたいです。

【代表者からのエール】

ラグビーで鍛えた肉体を十分活用し、毎日精進して山仕事をこなしてくれている事にすごく感謝しています。

先輩への気遣い、後輩の面倒みも良く、これから会社の中心的存在となり、いろいろな経験も重ね活躍してくれることを期待しています。

安全第一で気を付けて頑張ってください。

【林業を志す人へのメッセージ】

森林から生まれるものは全て人に必要です。

私達はその森林を守り、育てています。

かけがえのない財産である森林を「未来へ」繋ぎ、「人と人」を繋いでいきましょう。

詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-29138608

「森のジヨブステーション」まで

地域の人



努力すれば近いところまでいける

原木しいたけ生産者 山岡 政彦さん



笑顔が素敵な山岡 政彦さん

加茂郡七宗町神測で原木しいたけを栽培している山岡さんは、令和7年5月に日本特用林産振興会より特用林産功労者として表彰されました。

山岡さんは、30代40代に父の原木しいたけ栽培を手伝い、退職後、原木しいたけ栽培を開始しました。現在は、飛騨からの購入原木2,000本と自伐原木1,000本の年間約3,000本に植菌し、10,000本のしいたけ原木を保有しています。

しいたけは、主に可児市、美濃加茂市や関市等の直販所に出荷し、地域に根差した販売を行っています。

山岡さんは一般の消費者が求める家庭用のしいたけを栽培し、誰もが良い品を安く購入できるように努めており、購入者からの評判も良いそうです。

発生時期を考えて種菌を選び何度も試し、菌とよく対話しながら発生時期を操作するなど、工夫と研究と努力を重ね栽培を続けています。

また、地元はシカが多く農作物の被害に困っており、山岡さんは地元住民にシカを獲ってほしいと頼まれ、10年前にわな猟免許を取得、設置した25個のくくりわなを毎日見回り、地域の獣害対策にも貢献しています。

表彰を受けてのご感想

表彰してもらえるなんて、夢にも思わなかった。原木しいたけをやってきて良かった。自分が作っていたしいたけ「かぶちっこ（神測っ子）」を食べて、お客さんにおいしかったと言ってもらえるのがうれしい。

購入原木と自伐原木の栽培

飛騨から購入している原木はまっすぐで綺麗だが、寒い所で育ったからか皮が厚くて木が固い。地（地元）の木は、曲がっているが、この辺はあったかいから、木が柔らかい。自分で伐った地の木で育てたしいたけの方が肉厚でいいのができると思うている。



自分で伐採した原木達

自分で木を伐採することについて

木を伐ることは楽しい。木は1本ずつ違う、よじれたり、枝葉の付き方も違う。倒した後の作業を考えて方向を決め倒す。かかり木にならないよう、風をみながら倒すが、思った方向に倒れると大変気持ちいい。元気なうちはやろうと思っている。

市場での山岡さん

朝3時に起きて朝採りし、鮮度の良いものを市場に運ぶ。市場に着くと、いろんな人と話す。みんな友達。市場は朝6時に開くが、その前に行つて、市場に置いてある箱を借りて並べて座って、世間話をするのが楽しい。それぞれ専門の野菜栽培のコツを教えてください、相撲や野球のことを話したり毎日楽しい。

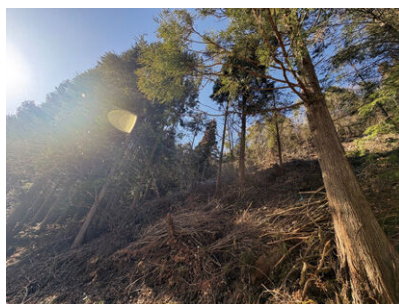
努力すればいける

中学生の頃は陸上部で、60歳まで毎日走った。自分のなまけ心に勝つために。自分より能力が上の人はいる。でも、より努力すれば、追い越せないにしても

近いところまでいける。勝てんけど、たいがいのところまでは行けるよ。

何か伝えたいことは

コナラが生えている山を通りがかりに見つけても、持ち主が分からない。役所でも個人情報だからと教えてもらえない。山に入って木を伐るにも山の持ち主も所有界がはっきり分らない。山の持ち主や所有界が簡単に分かるようになればもっと伐れるようになると思う。



コナラを伐採した斜面

山岡さん(81)のこれからの目標

原木しいたけ栽培は、85歳までやろうと思っている。家内が、自分の体調を気遣って、体にいいものを食べさせてくれる。よく食べて、よく寝て、規則正しい生活をするよ。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0574-125131111 (内線422)

可茂農林事務所林業課まで



“ぎふの木”使います!

— 岐阜県木の国・山の国県産材利用促進協定締結事業者のご紹介 —



県では、「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」に基づき、事業者と協定を締結し、県産材の利用を促進する構想の実現に向けて連携して取り組むことで、脱炭素社会の実現や循環型社会の形成、地域経済の活性化を目指しています。

これまでに42事業者の皆様と協定を締結しました。順次、協定締結事業者の取り組みを紹介します。

株式会社丸泰

<今までの取り組み内容>

2025（令和7）年7月16日、長野県阿智村 mökkiにて新ヴィラが完成し、岐阜県産BP（重ね）材等の新技術活用をテーマにした視察・勉強会を開催しました。当日は、岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム、ぎふの木ネット協議会、岐阜県林政部県産材流通課の皆様をはじめ、建築・設計の専門家による講演や施設紹介が行われ、BP材の構造性能や活用事例について学びを深めました。本施設は、地域材の魅力と可能性を体感できる空間として、今後の非住宅建築のモデルケースとなることを目指しています。



<今後の取り組み内容>

2026（令和8）年度は岐阜市内に本社社屋の建替を予定しており、新社屋の机や椅子などの備品の一部に岐阜県産材を採用し、木の温もりを感じられる空間づくりを目指します。また、宿泊施設の開設を予定しており、こちらにおいても岐阜県産材を積極的に使用する計画です。新築した事務所や備品における県産材の活用については、ホームページやSNS等を通じて発信し、岐阜の木の魅力や取り組みの姿勢を広く伝えていきます。



<事業者概要>

- 本社所在地 岐阜市領下6-46
- 業務内容 建設業、宿泊業、サウナ
- ホームページ
<https://www.maruyasu-gr.co.jp>
<https://www.naganoachimura-glamping.com>



各協定締結者には、県産材の活用について積極的な普及啓発に努めていただきます。



伐採及び伐採後の造林の届出制度のお知らせ

森林を伐採・開発しようとするときは、森林法第10条の8の規定により、事前に「伐採及び伐採後の造林の届出書（以下、届出書）」の提出が必要です。また、伐採及び伐採後の造林を行った場合は、事後に「伐採に係る森林の状況報告書（以下、伐採報告書）」及び「伐採後の造林に係る森林の状況報告書（以下、造林報告書）」を提出する必要があります。

- ※間伐する場合には「伐採報告書」及び「造林報告書」の提出は不要です。
- ※伐採後に森林以外に転用する場合には「造林報告書」の提出は不要です。

Q. 届出・報告の対象となる森林は？

対象となる森林は、地域森林計画の対象となっている民有林です。地域森林計画対象森林は岐阜県HP「ぎふ ふおれナビ」で確認することができます。

(岐阜県HP「ぎふ ふおれナビ」 ⇒ <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2264.html>)

なお、保安林の伐採や林地開発を行う場合は、手続きが異なりますのでご注意ください。

Q. 誰が提出するの？

①届出書

- ・「届出書」は、森林所有者もしくは伐採をする（権原を有する）者が提出します。伐採をする（権原を有する）者と造林をする（権原を有する）者が異なる場合は連名で提出します。

②伐採報告書

- ・「伐採報告書」は、伐採をした（権原を有する）者が提出します。

③造林報告書

- ・「造林報告書」は、造林をした（権原を有する）者が提出します。

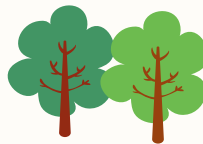
Q. いつ、どこへ提出するの？

①届出書：伐採を開始する日の90日から30日前まで

②伐採報告書：伐採を完了した日から30日以内

③造林報告書：造林を完了した日から30日以内

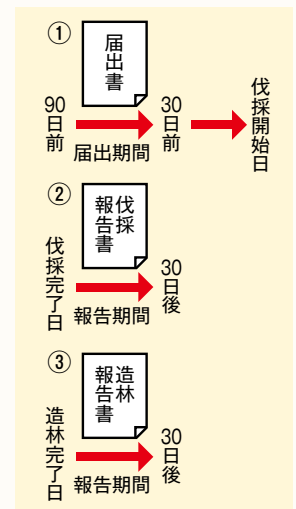
※それぞれ、対象森林の所在する市町村に提出します。



Q. 添付書類は？

- (1)森林の位置図・区域図
- (2)届出者の確認書類
- (3)他法令の許認可関係書類
- (4)土地の登記事項証明書等
- (5)伐採の権原確認書類
- (6)隣接森林との境界関係書類
- (7)市町村長が必要と認める書類

書類の添付は義務となりますので、該当する場合には、必ず添付をお願いします。詳しい内容については、市町村にお問い合わせください。



伐採旗設置制度のお知らせ

皆伐（普通林は1ha以上）を行う場合は、伐採旗を設置してください。

Q. 制度の目的は？

合法伐採を行う目印として伐採旗を設置し、合法伐採箇所の判別を容易にすることで、違法伐採の防止を図るとともに環境に配慮した伐採を進めます。

Q. 制度の概要は？

下記の伐採を行う現場に伐採者が伐採旗を設置します。

種類	普通林	保安林
旗の設置対象	1ha以上の皆伐	全ての皆伐
設置する旗	伐採届出旗	伐採許可旗
旗の交付者	市町村	県（農林事務所）
設置期間	伐採開始日～造林完了まで	伐採開始日～伐採終了まで

伐採届出旗



伐採許可旗



相続登記の義務化のお知らせ

令和6年4月から相続登記の申請が義務化されました。

あなたがお持ちの森林の土地の相続登記はお済みですか？

- ・令和6年4月から、相続によって不動産を取得したことを知った日から3年以内に、相続登記の申請を行うことが義務になりました。
- ・法施行より前に相続した不動産も義務化の対象です。
- ・新たに設けられた「相続人申告登記制度」により、早期に遺産分割をすることが困難な場合には、申請義務を簡易に履行することができます。

お問い合わせ先

制度や手続きの詳細については、法務省Webサイトをご覧ください。
相続登記の義務化の詳細について（法務省Webサイト）⇒



●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8471 林政課森林計画係まで

～ぎふ木育コーディネーター～

県では、「ぎふ木育」を全県に展開するため、資格制度の見直しを行い、地域における「ぎふ木育」の総合調整を行う人材として、「ぎふ木育コーディネーター」を委嘱しています。令和7年度、県下で初めて委嘱を受けた2名のコーディネーターの紹介をします。

ぎふ木育コーディネーターとは

- 定義：「ぎふ木育」に関する幅広い知識・経験を有し、地域における「ぎふ木育」のコーディネートを行う者
- 委嘱：県が委嘱（委嘱期間は2年間）
- 役割：「ぎふ木育」の指導者や「ぎふ木遊館サテライト施設」等に対する助言
「ぎふ木育」に関する人材の交流促進、育成
「ぎふ木育」に新たに取り組む施設への提案及び指導者の派遣の調整
- 要件：ぎふ木育地域連絡会議からの推薦者
県民を対象とした「ぎふ木育」の取組について、自ら企画・運営を行った実績があるもの

ぎふ木育コーディネーターの紹介



【東濃圏域】赤尾 友和さん
(NENO自然体験合同会社 代表)



【飛騨圏域】白田 陽子さん
(森とひとと木 代表)

※過去の森林のたよりで、お二人の活動を紹介していますので、ぜひご覧ください。
赤尾さん：2024年12月号（855号）ぎふ木育全県展開② 恵那地域のキーパーソン
白田さん：2025年8月号（863号）ぎふ木育全県展開⑦ 飛騨地域のキーパーソン

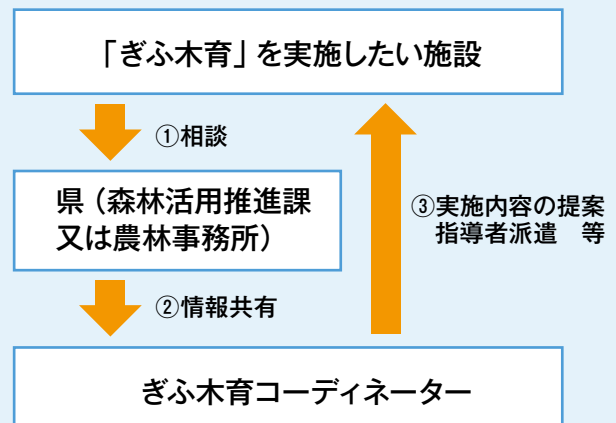
コーディネーターの活用について

「ぎふ木育教室」や「緑と水の子ども会議」など、「ぎふ木育」などの取組みを実施したい施設に対し、「ぎふ木育コーディネーター」が実施内容や指導者派遣等について、相談対応します。

また、今後、岐阜、西濃、中濃圏域でも、「ぎふ木育コーディネーター」の委嘱を進めていきます。

※詳細は、森林活用推進課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/476184.html>

●事業実施のフロー



YAMA NO SAIJIKI
248
山の歳時記
スギナとツクシ
文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事
川尻 秀樹

春のツクシを見ると、昔、娘が自分で摘んできたツクシを卵とじて食べていたことを思い出します。

ツクシはトクサ科のシダ植物、スギナ (*Equisetum arvense*) の胞子茎 (胞子囊穗) で、各節の袴と呼ばれる鱗片葉 (葉鞘) を取り除いて、卵とじやお浸し、天ぷらにして食べられます。胞子茎を紙の上に置いて放置すると、胞子囊穗から出る緑色のほこり状のものが胞子です。ツクシの

先端の胞子囊穗は六角形の胞子葉が集まっており、胞子葉の裏側に胞子囊が6つずつ付いています。胞子には葉緑素があるため胞子囊が緑色に見えますが、胞子が出た後の胞子囊は白くなります。

胞子は球形で、4本の触覚のようなものがある。1ヶ所から四方に伸びています。この触覚のような組織は、湿気を帯びるとすぐに胞子に巻きつき、乾燥すると伸びてくるため、ゆっくり息を吹きかけると胞子は縮まり、そのまま放置すると次第に広がります。

よく晴れた日に、ツクシの茎を指で弾くと胞子が煙のように漂いながら地面に落ち、発芽して直径1cm弱の小さいレタスのような形体 (前葉体) をつくり、新しいスギナの子どもが伸び出します。

ツクシは春の季語で、江戸時代の川柳に「小判では いやだと逃げる 土筆売り」と詠まれています。江戸時代でも子どもがツクシ

を摘んで一文で売っていたらしいのですが、見たこともない大金を子どもに見せて悪ふざけする大人の様子が詠われているのです。

ツクシの名は土を突いて地表に出る「突く子」とか、スギナに付いている「付く子」とか、節のところで切り離しても継げる「継ぐ子」とか、船が港へ入る航路を示す杭の「濬標 (みおつくし)」に似ているからとか言われます。

『源氏物語』の早蕨 (さわらび) の巻には、「蕨つくづくし、をかしく籠 (こ) に入れて……」という記述があり、この「突く突くし (突き伸びる)」が詰まってツクシになったとも言われます。

ツクシが終わると、次には地下茎を伸ばして繁茂し、外見のまったく異なる栄養茎を伸ばして光合成を行います。鮮やかな緑色のスギナは主軸の



(左) 胞子が飛んで白くなった胞子囊穗、
(右) 緑色に見える胞子囊穗

節ごとに関節のある緑色の棒状の葉を輪生させるため、スギの樹形に例えて「杉菜」とも呼ばれました。属名の *Equisetum* はスギナの輪生する細い葉をウマの尻尾に見立てた「*equus* (馬) + *saeta* (剛毛)」が語源で、種小名の *arvense* は「野原に生える」という意味です。英語でも属名に似た *Field Horsetail* (Common Horsetail) と呼ばれているのです。

ぎふ木遊館通信

ぎふ木遊館 ウインターフェスタを開催しました!

令和8年1月31日にぎふ木遊館ウインターフェスタを開催し、第1部では当館名誉館長の竹下景子さん、絵本作家の村上康成さんをお迎えし、心あたたまるトークライブを実施しました。村上さんにはご自身の自然の中での体験をもとにしたお話や、作品作りの裏側など、絵本の紹介とともに語っていただきました。第2部では特別な木育プログラムを実施し、木に触れ・遊び・学ぶ、ぎふ木遊館ならではの体験が詰まった内容をご紹介します。

第1部では幼稚園の先生ユニットBeans♪によるプチコンサートから始まり、『世界中のこどもたちが』（作詞：新沢としひこ／作曲：中川ひろたか）、『手をつなごう』（作詞・作曲：槇原敬之）の2曲を演奏いただきました。『手をつなごう』では参加者同士で隣の方と手をつなぎ、木育ひろば全体がやわらかい一体感に包まれました。

その後、竹下名誉館長と村上さんのトークライブが始まり、トークライブ中には村上さんの作品である『わく』と『くまくんです。』を竹下名誉館長が落ち着いた語りで朗読されました。

そのほかにも『石のきもち』『まっている。』などの作品紹介や村上さんが自然の中で体験された出来事を交えたお話が展開され、会場は興味深い内容に耳を傾けていました。

また、世界中を旅された経験や、釣りを通じて得たエピソードについてもお話いただき、多彩な話題で盛り上がりました。

トークライブ中には、“ガマの穂”が参加者へ回される場面もありました。初めて触れる方も多く、「ふわふわしている」といった声が聞かれ、五感を使って楽しむひとときとなりました。

トークライブ後半には、村上さんがヤマメ柄のウクレレ（弦は釣り糸）を使い、『ライじいさんの歌』を演奏されました。木育ひろば全体がゆるやかで温かな空気に包まれ、心地よい時間が流れました。



トークイベント中の竹下名誉館長と村上康成氏



Beans♪のプチコンサート

第2部では木育プログラム「万博で!世界の人たちと作ったお花+1」を実施しました。当プログラムは竹下名誉館長にもご参加いただき、参加者の皆さまと一緒に、じっくりと木のお花づくりを楽しまれました。

今回使用したのは、東濃ヒノキのかんなくしゅ（木材をかんなで削る際にでる、薄く平らな木片）です。講師から割き方や整え方の説明を受け、参加者は一つひとつ丁寧に形を作りながら、木のお花を仕上げていきました。ヒノキの香りに包まれながら進める作業はとても好評で、和やかな雰囲気の中、思い思いの作品が完成しました。

当館では子どもから大人まで楽しめる木育プログラムを毎月実施しています。休日の過ごし方として、またお仕事のリフレッシュとして木と触れ合って癒されてみませんか?



木のお花の制作をされる竹下名誉館長

～ぎふ木育実践基礎研修開催のお知らせ～

ぎふ木遊館では岐阜県の豊かな自然・森林を次世代につなぐための「ぎふ木育」を知り、伝えるための研修を開催しています。

ぎふ木育に関心のある方のお申し込みをお待ちしております!

日時: 令和8年4月19日(日) 9:30~14:00

場所: ぎふ木遊館

お申込みはこちら!→





やがてみんなの森になる

morinos

ひろば紹介!

岐阜県立森林文化アカデミー・森林総合教育センター（morinos）は森と人をつなぐ「森の入り口」となる施設です。morinosのひろばには、一般的な遊具はないけれど森や外遊びを楽しむ仕掛けが盛りだくさん！その裏ではmorinosスタッフや、インターンシップとして働いている森林文化アカデミーの学生が、普段の遊びの様子を観察して、みんなの遊びを応援するために仕掛けを作ったりひろばを整えたりしています。

だから、久々にmorinosに遊びに来てくれた人は、「あ！知らないものが増えてる！」とか「こんなの前にはなかった！」という発見があるかも？「morinosは永遠に未完成」をキーワードに日々変化し続けています。今回はそんなmorinosひろばをご紹介します。

<遊びが広がる仕掛け！ morinos ひろばのオモシロイ工夫>



まずは楽器コーナー。楽器台を作ったことで前よりも見やすく、そして片づけやすくなりました。morinosひろばではどんなに大きい音を鳴らしても大丈夫！ギターやピアノ、または自作した楽器を使って、素敵な音色を奏でてみてくださいね♪

こちらは来館者が自由に使える「みんなの材」コーナー。棚の段が増えたことで、長い枝や角材などいろいろな種類の材が入り、一目で見やすく、取り出しやすくなりました。人形や椅子、剣、誰かへのプレゼントを作ってもいいし、ただただ釘を打ったりノコギリで切ったりしているだけでも創作意欲が湧いてくるかも？！



morinosひろばにひっそりとたたずむカエル池。カエルやトンボなど水辺の生き物が集まる憩いの場ですが、この度リニューアル工事を行うことに！今までの池と違って広く、そして晴れが続いても水が涸れない池になる…予定です！完成は春頃です。お楽しみに。

家庭で使うキッチンに負けないくらい本格的なmorinosのおまごどコーナー。台も棚もすべて手作り。フライパンや鍋なども使わなくなったものをここでリユースしています。自然素材をふんだんに使った自分だけのオリジナル料理を、おうちの人や先生に振る舞ってはいかがでしょうか。



morinosはこれからもどんどん変化していきます。「そういえば最近morinosで遊んでなかったかも？」という人もこの機会に遊びに来てください！

morinos HPでは、こうした日常風景からプログラムまで、様々な活動報告を行っています。興味を持ってくださった方は、morinosのHP、YouTube動画をご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

開館時間 10:00~16:00

YouTube 検索「morinosチャンネル」

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube
「morinosチャンネル」

令和8年度「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用した事業の全体計画

県では、豊かな森林や清らかな川を守るため、平成24年度から「清流の国ぎふ森林・環境税」を導入し、5年ごとに見直しをしながら、自然環境の保全・再生に向けた取組みを進めています（第1期：平成24～28年度、第2期：平成29年度～令和3年度、第3期：令和4年度～令和8年度）。令和8年度の「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用する事業については、以下を予定していますのでお知らせします。

事業名	事業の概要	計測量	予算額 (千円)
I 森林部門			
環境保全林整備事業	「環境保全林」における間伐等	(人工林の間伐等)	2,100ha 540,809
里山林整備事業	①-1 危険木の除去	(森林内の危険木伐採)	70 箇所 135,000
	①-2 バッファゾーンの整備		40 箇所
	②ライフライン保全対策事業	(電線周辺の危険木伐採)	12 箇所 30,000
脱炭素社会に貢献する森林づくり事業	①被害森林等での早生樹等の植栽等	(植栽等整備)	20ha 50,000
	②森林吸収源対策	(研究会等 説明会等)	9 回 1 回 2,000
教育福祉関連施設木造化・木質化等促進事業	①木造化・内装木質化		6 施設 40,000
	②木製品の導入		20 施設 24,000
木質バイオマス利用促進事業	①木質バイオマス利用施設の導入	(ボイラー) (ストーブ)	1 施設 30 台 11,045
	②未利用材の搬出		4,500t 7,200
ぎふ木育推進事業	①-1 ぎふ木遊館の管理・運営	(入館者数)	50,000 人 87,210
	①-2 ぎふ木育の全県展開の推進	(ぎふ木育サポーター登録者数 累計)	400 人 47,919
	②ぎふの木を使った教材の導入		60 施設 4,000
	③森や木、川に関する環境教育やぎふ木育教室の開催等	(参加者数) (市町村企画数)	6,800 人 11 件 34,874
森林空間活用促進事業	①観光道路周辺の観光景観林の整備		100ha 27,000
	②森林空間の活用を図るための施設の設置・改修		8 施設 23,000
	③森林空間を活用した活動の普及促進	(協議会会員数(者)累計)	100 者 2,300
II 環境部門			
野生鳥獣個体数管理事業	①ニホンジカの個体数管理を目的とした捕獲等		7,000 頭 121,411
	②ニホンザルの個体数管理を目的とした捕獲等		345 頭 22,375
	③カワウ、カワアイサ及びサギ類の個体数管理を目的とした捕獲		1,000 羽 24,700
	④大学等と連携して行う野生動物管理に関する調査研究等	(市町村等への技術指導)	10 件 51,500
自然生態系保全・再生事業	①上下流域が連携した河川清掃活動		20 河川 30,000
	②河川魚道の改修及び適切な維持管理	(健全な魚道の割合)	80% 45,000
	③水田魚道の設置等による水みちの連続性確保及び効果検証		4 地区 7,000
	④生物多様性の保全・再生の普及啓発	(シンポジウム等の開催)	14 回 1,500
	⑤生態系保全・再生に係る活動支援	(団体・市町村支援数)	24 件 25,020
脱炭素社会ぎふづくり事業	脱炭素社会ぎふを支える人づくり	(体験プログラム等参加者数)	500 人 18,450
III 共通部門			
清流の国ぎふ地域活動促進事業	各種団体等が行う森林づくりや水環境保全等の活動支援	(森・川づくり活動の件数)	50 件 27,000
その他			
清流の国ぎふ森林・環境税推進事務費	森林・環境税事業に係る普及啓発等		一式 6,707
合計			1,447,020

今年度も各事業の取組み状況を毎月掲載します。

●詳しい内容を知りたい方は [TEL 058-272-8472](tel:058-272-8472) 森林活用推進課森林活用係まで

木の香る
ぎふの施設
155

日中支援型グループホーム きずな 福祉型短期入所 きずな

木造化

住所 美濃加茂市加茂野町加茂野字南野820-6



施設全景

施設の概要

事業年度	令和6年度
事業主体	特定非営利活動法人ライフテラス
構造 延床面積	木造1階建 延床面積:291㎡
施設用途	障がい者グループホーム
木材使用量 使用樹種	42.03㎡ スギ・ヒノキ
全体事業費	103,070千円
助成額	4,947千円(木の香る快適な公共施設等整備事業)
設計者	ミュージズ建築1級建築設計事務所
施工業者	ミュージズ建設株式会社
工期	令和6年10月~令和7年3月



廊下

施設の経緯

「日中支援型グループホームきずな」は、2025年4月に開設した障がいのある方のためのグループホームです。地域の一員として安心して暮らしていけるよう、家庭的で落ち着いた環境の中で日々の生活を支援しています。

館内には岐阜県産のスギやヒノキがふんだんに使用されており、木の温かみや香りに包まれながら過ごせる心地よい空間が広がっています。



広場ロビー

ここに注目!!

天井を高くしたことで室内は明るく、開放感のある空間になっています。あらわし梁が木の温もりを感じさせ、自然素材のやさしい質感が入居者に安心感を与えています。地域の中で安心して生活し、自分らしく過ごせる「暮らしの場」を目指しています。

利用者の様子

家庭的で木のぬくもりに包まれた空間の中で、利用者の皆さんは自分のペースで穏やかに過ごされています。居室や共有スペースでは、テレビを見たり、ゆったり休んだり、安心して日常を楽しむ姿が見られます。

問い合わせ先 >> 日中支援型グループホーム きずな
福祉型短期入所 きずな
TEL 0574-66-2277



森林と人を 生かす知恵 159

種を撒き続ける

「見えにくいものに働きかける」森林環境教育という仕事

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 萩原・ナバ・裕作

「お忙しいところ突然の連絡お許しください」

先日、そんな言葉が始まるメールが届きました。実習の一環として20年近く続けている子供向け自然教室「もりもりキャンプ」の過去の参加者からでした。

森林環境教育という分野は、森林文化アカデミーの他の専攻（学部）が扱う林業や木工、木造建築のように、「カタチのあるもの」を相手にするのではなく、「子どもや大人の「気持ち」「価値観」「感性」「考え方」といった「カタチのないもの」にとことん寄りそい、成長を応援していく仕事です。



だからその成果や結果は、全くと言っていいほど見えません。それだけに、この活動の効果や成果を、一般化したり、他人に伝えたり、残したり、価値をつけたりするのが非常に難しい分野でもあります。

そうした中、今回のような手紙をもらうと「やり続けてきてよかった」と純粋に嬉しいのです。成果を初めて確認できるからです。そして何よりも最高の「ご褒美」でもあるのです。この喜びをぜひともシェアしたいと思い、今回、差出人本人から許可を得て、メールをご紹介します。

現場の皆さん、学生の皆さん、あなたが撒き続けている種も、しっかりと芽を出しているはずですよ。そしてメールをくれたNさん、本当にありがとう。いつか森で再会できるのを楽しみにしています。



（以下原文ママ／写真はイメージです）
お忙しいところ突然の連絡お許しください。

初めまして！

で、始めようと思ったのですが実は何度かお会いしたことがあるんですね。

覚えてらっしゃらないと思いますが、森林文化アカデミーで開催されていたもりもりキャンプの常連だったNと申します。小学生のころからそちらに通い始め、今では19歳の大学生になりました。お久しぶりです、お元気ですか。

今回は一方的に感謝の気持ちを伝える為だけに連絡させていただきました。もりもりキャンプに参加して森が大好きになった私は、将来も森に関わる仕事がしたいと思い、現在大学で森林保護、森林生態を専門に勉強しています。海も山も楽しみたいと欲張った結果、R大学に通っております。

高校時代、理系に進んだはいいものの進路に迷っていた中、もりもりキャンプとNさんの存在が森林関係の仕事をしたいという気持ちを強くしてくれました。自然あふれる今の環境は本当に楽しくて、きっかけをくださったNさんには凄く感謝しています！ありがとうございます。



もりもりキャンプは私の人生の中で大きな存在で、子供のころにあんなに素敵な経験ができたことは宝物です。大学でもこの先どんな仕事をしようか決められないのですが、自然と人をつなぐインタープリターのようなお仕事ができればいいなと思っております。

特に子供たちに、あのころ感じた新鮮な感動を届けたいという気持ちがあります。これからも学びを止めず頑張りたいと思っておりますので応援してください！

最後に、つたない文章、また、直接会って伝えられなくて申し訳ないです。自然を相手にするのは大変ですが、Nさんもご愛ください。いつかまたお会いできるのを楽しみにしております。

R大学 農学部 AN学科
森林環境コース Nより



菌床シイタケの発生に及ぼす夏場の 限界温度を把握して栽培管理に活用しよう

森林研究所 上辻久敏

はじめに

近年、簡易なビニールハウスで栽培されているシイタケでは夏季の気温上昇が原因と考えられる発生量の低下が深刻化しています。簡易なハウスでは冬場の暖房設備は整備されている一方で、夏季の冷房設備は一部の限られた施設にしかありません。種菌会社が公表している栽培最適温度は実際の施設温度よりかなり下

にあり維持することは困難です。簡易施設の生産者からは「シイタケの菌床が何度にどれだけの時間さらされると発生に影響するのか」という質問をたびたび受けます。この質問を解決するために、発生量に大きなダメージを与えるシイタケ菌床の温度上昇とその暴露時間を把握するための試験を行っています。

暴露時間の違いによる発生への影響

気温の高い夏場の管理の一つである袋カット時期に注目し、36℃以下で日単位の暴露時間の影響と41℃以上については分単位の暴露時間の影響を調べました。

日単位の暴露試験

培養後期の袋カット時期の菌床を21〜36℃で1〜5日暴露すると、33℃以上では温度と暴露時間の増加にともない発生開始が遅延しました。品種によって温度に対する耐性が異なる可能性もあることから、県内主要3品種を36℃で5日間暴露したところ、3品種中2品種は発生せず、残りの1品種も大きく減少しました。

分単位の高温暴露試験

袋カットから除袋直前の菌床を各温度で15分間暴露したところ36℃までは発生に変化はありませんでしたが、41℃以上で発生が大幅減少または停止しました(図1)。さらに41℃の暴露時間の影響を県内主要3品種で試験したところ、すべて15〜60分以内の暴露時間で発生量が減少しました(図2)。この結果、短時間でも41℃を超えると初期の発生機構に致命的ダメージの可能性があることが判明しました。

施設管理の改善

県内のシイタケ生産組合から依頼があり、夏場の袋カット前に組合役員、JA、種菌会社、当研究所が、連携して全生産者の施設の状況把握と改善点の抽出を行いました。赤外線サーモグラフィで調査したところ、天井付近・側壁付近・棚上段が特に高温になっている施設が多数存在しました。施設によっては、シイタケが発生せず、菌床の配置をとりやめている箇所があり、測定すると41℃を超えていました。生産組合は調査結果を活用し、市の事業で断熱対策の補助を受け、断熱資材を用いた高温対策に取り組んでいます。

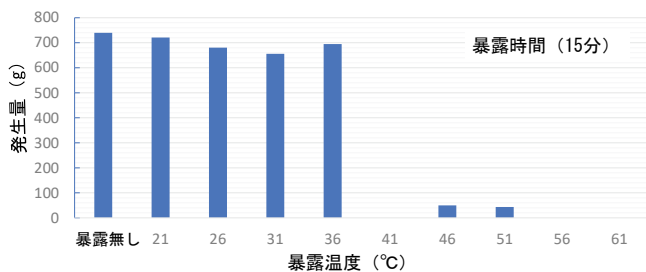


図1 15分間の暴露温度によるシイタケ発生への影響

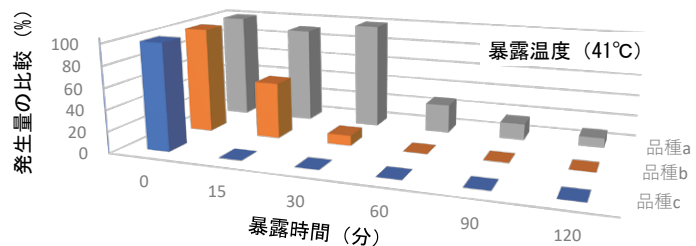


図2 41℃の暴露時間によるシイタケ発生への影響

また、冷却設備を導入した施設でも、高い外気温の影響等で室内環境が不均一になっている事例があり、改善に取り組んでいます。当所ではキノコ生産会社と連携して、室内環境の均一化に向けた改善と増収試験を行うことで、生産量の増加に成功している事例もあります。生産者の方でお困りごとがあればいつでもご相談ください。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0575-3312685
森林研究所まで

西濃地域における林業普及活動について

西濃農林事務所 林業課

林業普及指導員 兼定 喜寿郎



西濃農林事務所管内は、岐阜県の西南部に位置する大垣市を中心に2市6町からなり、濃尾平野の平坦部と伊吹養老山地に大別されます。また、管内市町のうち、森林を有するのは2市3町（大垣市・海津市・養老町・垂井町・関ヶ原町）であり、管内の森林率は41%と県平均の81%に比べ半分となっています。

民有林の森林面積は、約2万3千haと県内全農林事務所でも最少ない面積です。

管内の林業事業体は西南濃森林組合（以下森林組合）が主力となっています。当森林組合では県の補助事業等を活用し主伐・再造林、間伐や作業道整備など森林経営計画に基づき実施していますが、今後、事業量を増加させていくには、職員のマンパワーが十分であるとは言えません。今回、森林組合のメイン事業でもある造林補助事業の申請手間を省くため、デジタル申請への取り組みを支援したので紹介します。

■取組の内容等

①オルソ画像による造林補助事業の補

助金申請について

造林補助事業においては、令和2年4月に林野庁が造林補助事業竣工検査内規を改正したことを受けて、岐阜県でも令和3年度からGNSS測量や人工造林、下刈り、幼齢木保護材、防護柵等についてはUAV（ドローン）により作成されたオルソ画像を使うための補助申請ができるようになりました。

これに対応し、農林事務所としてもデジタル申請に向けて森林組合に働きかけをしました。その結果、試行ということでオルソ画像を使って下刈りの申請をすることができました。

②森林組合へ出向いての活動

○事前打合せ
森林文化アカデミースマート林業推進係の協力を得て、補助金のデジタル申請について、実際の作業内容等を森林組合に説明しました。森林組合は参事を含め4人の出席がありました。

・ドローンの操縦資格について
国家資格は「一等無人航空機操縦士」と「二等無人航空機操縦士」の2種類。

・ドローンの制限について

重量100g以上のドローンは機体の登録が義務化された（通常写真を撮影する機体は100g以上）、飛行する際は、日中に目視の範囲内で、対象物から30m以上の距離が必要、ドローンを地表から150m以上の上空で飛行させる場合は国土交通大臣の許可が必要。

・森林整備事業申請用ドローン撮影の基準について
ドローン撮影（オルソ画像作成用）の基準等について、飛行高度150m以下、オーバーラップ率90%以上、サイドラップ率60%以上、対地高度一定（ドローンの直下の地表からドローンまでの垂直方向の高さ）が望ましい、撮影は出来るだけ曇りの日が良い（コンストラストが弱い）、下刈り施工前、施工後の写真を撮ることなど確認しました。

最後に、デジタル申請ができる器材等（ドローン、自動飛行させるソフト・オルソ画像を作成するソフト）について確認しましたが、全て揃っており問題ありませんでした。

なお、今回の現場については、事前に森林組合が飛行ルートを入力してい

ました。（飛行ルートの入力に1.4haで約10分/人かかりました。）

○現地にてドローン撮影

・下刈り施工前の写真撮影

打ち合わせのあとは、令和6年度に関ヶ原町今須地内にて春植え（ヒノキ1・40ha）した現場に移動し、下刈り施工前の写真をドローンにて撮影しました。

飛行（撮影）時間は約10分（3ルート）で、撮影枚数約50枚、天候は晴れ、微風、高度90mで設定、1フライトで順調に作業が完了しました。

・注意点など

ドローンの撮影は1人でいいのか2人必要なのか確認したところ、1人でも撮影可能であるが、プロポを見る人1名、ドローンを見る人1名配置し、万が一墜落の際の捜索のためにも2人居た方が安心とのことでした。また、風が強いとバッテリーの減りが大きいので注意する必要があります。



事務所にて飛行ルート等確認



下刈り前の現地状況

○森林組合事務所に戻りオルソ画像の生成

画像解析ソフトによりUAVデータを取り込みオルソ画像を生成しましたが、約45分で作業が完了しました。欠損もなくきれいなオルソ画像ができました。オルソ化した図面で下刈りの必要性、面積の確認をしました。



オルソ画像 着手前



オルソ画像 完了後

○森林組合職員からの主な意見・今後の取り組み

・デジタル申請をした場合、現地検査が省略できる反面、事務作業としては箇所位置図をオルソ画像に変換、オルソ画像による完成写真(対比)の作成、現地ではドローン航路計画、ドローン飛行・オルソ化の作業が増えるので本当に楽なのか何とも

言えない。

・ドローン撮影により下草が生えていない区域等除地が分かりやすくなった。

・ドローンは風が吹くとバッテリー残量が急激に落ちる、また大面積では飛行時間が持たないので予備のバッテリーを持っていく必要がある。

・今後は、デジタル申請の手間を精査しつつ、他の森林組合の事例なども共有しながら前向きに取り組んできたい。

■造林補助申請について

今回試行ということでデジタル申請に取り組みましたが、この場所以外2箇所の下刈りについても同様に申請が行われました。

■今後の取り組み

造林補助事業の申請・検査業務については、多くの書類作成が必要であること、申請の一部について現地検査を行う必要があるなど人員が限られる中で申請側・検査側双方にとって大きな業務負担になっているかと思えます。

農林事務所としても、デジタル申請の課題を洗い出し、他の地域での取り組み状況も確認しながら申請等作業事務の効率化に向けて、デジタル申請をより一層推進していきたいと思えます。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL0584-173-1111

西濃農林事務所まで

スマート林業通信 ⑤

「RTS基準局」が県内3ヶ所で稼働開始 — RTK-GNSSで高精度に森林情報を管理 —

林業現場や森林調査での測量精度の向上を目的に、県内3ヶ所でRTK(リアルタイム・キネマティック)の基準局を開設し運用をはじめました。従来のGNSSの単独測定では数メートルの誤差が生じる場面でも、RTKを利用することで数センチレベルの高精度な位置情報をリアルタイムに取得できます。

森林文化アカデミーによるRTK基準局の整備は、数年前試験的に中津川市北部に1基を公開したことから始まりました。今回、岐阜大学の協力により、岐阜市内と下呂市内にそれぞれ1基を追加整備しました。これにより、県内全域を50km圏内でカバーするRTK環境が整い、より多くの方に安定して利用しただけです。

RTKは、対応したGNSS受信機が必要ですが使い方は簡単です。境界測量、作業道線形検討、森林調査など幅広い場面で効果を発揮します。精度向上により、GNSS上での現地情報の整理・更新もスムーズになり、森林管理データの一貫性向上にもつながります。

基準局の観測データは、どなたでも無料で利用できます。接続にパスワードは不要です。接続先を設定するだけで利用を開始できます。接続先の一覧は以下の通りです。

高精度な位置情報は、作業効率、安全性、データ管理の質を大きく高めます。RTKを日常の業務に取り入れ、計測精度の改善にお役立てください。

- ※1: 基準局の絶対座標精度・常時運用は保証できません。利用は使用者の自己責任でお願いします。
- ※2: 基準局観測データの使用には、電波圏内、または衛星データ通信などのネット環境が必要です。
- ※3: 各基準局の観測データはビジネスーション(株)様のNtrip Serverで配信しています。



MountPoint 名	設置箇所
①NAKATSUGAWA_F	中津川市
②C468F2E2	岐阜市
③C46AE6D2	下呂市

ホスト: ntrip.bizstation.jp
ポート: 2101

●詳しい内容を知りたい方は
TEL0575-135-2665
森林文化アカデミースマート林業推進係まで

国有林の現場から

114 林道業務におけるICT技術の活用について

3D点群データを使用した測量業務の効率化を目指して

令和8年1月27日、28日に中部森林管理局主催の「令和7年度中部森林・林業交流発表会」が開催されました。

岐阜森林管理署からは、「林道業務におけるICT技術の活用について」と題した技術課題について発表しましたので、今回はその発表概要を紹介いたします。

一、背景

当署の国有林には4.4kmの林道がありますが、少人数の土木担当と森林官により維持管理を担当しています。近年ゲリラ豪雨など、大雨の発生が増加傾向にあり、林道災害の発生も増えることが懸念され、現在の体制で現地調査などの対応を行うことは難しい現状となっております。

そこで、現地踏査の省力化を目的として、ICT技術を活用しようと考えました。

令和6年度に各森林管理署に配備されたアプリケーション「mapry林業」がインストールされたスマートフォンと、背負式LiDAR機器「LA-03」の2つを使い、これらで取得できる3D点群データを活用し、従来の測量と比較し作業効率の検証を行いました。

二、取組の方法

下呂市小坂町の赤沼田国有林内赤沼田上田俣林道の小災害箇所にて検証を行いました。

被災内容としては、大雨によって盛土のり面が流出しており、災害延長は15m、



▲背負式LiDAR機器「LA-03」

崩壊したのり面の高さは、5mほどです。中心線の復旧や測量はあらかじめ行い、横断測量を「従来のポール横断測量」「スマートフォン」「背負式LiDAR機器」の3つの方法でおこない、「安全性」「時間」「労力」を比較しました。

従来のポール横断測量

測点ごとに崩壊地を移動する必要があるため、身体的負担が非常に大きく、落石、滑落等危険度が高く作業時間を要しました。また、野帳と、測量する人との間で、言い間違い、聞き間違い、書き間違いといったミスが起こりやすくと感じました。作図作業では、数値をひとつずつ手入力するため、時間を要します。また、測量数値の入力間違いが発生しないか注意しながら作図する必要があります。

スマートフォンでの測量

林道全体と、崩壊地を縫うようにスキャンをしていきます。

従来のポール横断測量よりも作業時間の削減はできましたが、安全性について、iPhoneの機能上、レーザーの放射距離が5mと限られており、崩壊地でのスキャンの際にはある程度の危険が伴いました。得られた点群データをアプリケーション内で自動的に横断線を作成できます。点群データで表示されたポール測点を確認しながら、横断線、中心線を作成していきます。CADデータへと変換します。一部地形について、笹が繁茂していたため、点群データをうまく取得することができませんでした。

背負式LiDAR機器「LA-03」での測量

レーザーの放射距離がスマートフォンよりも広範囲なため、林道上を歩くだけで測量ができました。機器のセッティングの時間も含めて5分で測量が完了しました。

実行結果 ②スマートフォン 現地作業

時間・・・15分
安全性・・・危険度 中
労力・・・負担 中

※個人の感想です。

- ・崩壊した林道周囲を歩行し、点群データを取得
- ・崩壊地地表データのスカン時の安全性の低下



林道上での測量状況



崩壊地内での測量状況

黄色=レーザー照射イメージ

時間短縮とともに、労力の負担も軽減、安全性の向上にもつながりました。作図作業では、スマートフォンのように、LiDAR機器でのデータ編集ができなため、パソコンで解析ソフトウェア(mapryPC)を利用して点群データから横断線の取得までを行います。得られた3D点群データをDTM化(地表面データ化)し、点群データにて表示されたポールを目印に、測点を指定します。続いて、測点にそって横断線を中心線と直交になるよう指定します。この作業において、横断線を指定する機能が備わっていないため、フリーハンドで横断線方向を指定する必要があります。作図作業に時間がかかりました。

三、実行結果の比較

LiDAR機器等を使用することにより、従来のポール測量と比べて時間の短縮と安全性の向上、労力の軽減となることがわかりました。また、点群データをもとに、さまざま修正ができます。

ポール横断では、3D点群データでの取得が困難である笹や、枝条などが多くあるような箇所での測量が有効です。スマートフォンでは、手軽に持ち運びができることを生かし、現地での測量結果の確認と復旧計画の検討を行います。背負式LiDAR機器では、安全かつ時間の短縮に優れているため、一日で多くの林道を調査できます。

今回の検証を行い、LiDAR機器等の活用によって測量業務の効率化を図ることが可能になったとわかりました。今回使用したLiDAR機器等を使用することにより、さらなる作業効率の向上ができると考えます。検証で得られた結果をもとに、あらたな提案につなげて参ります。

(岐阜森林管理署)

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
4月22日(水)~ 4月24日(金)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 講習時間 22日 学科 8:50~17:10 23日 学・実 8:50~12:30 24日 実技 8:30~17:10 ● 申込:開催日の10日前まで ● 受講料:24,530円(本代含む)(振込み) ● 定員:30名(定員になり次第締め切ります。) 	22日(学科) 23日(学・実) ぎふ森林文化センター (岐阜市六条江東2-5-6) 24日(実技) 樹木の国 土場 (山県市椎倉203-1)
			林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
4月28日(火)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 講習時間:学科 8:55~15:20 実技 15:30~16:30 ● 申込:開催日の10日前まで ● 受講料:12,100円(本代含む)(振込み) ● 定員:30名(定員になり次第締め切ります。) 	ぎふ森林文化センター (岐阜市六条江東2-5-6)
			林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
5月14日(木)	チェーンソーを用いて行 う伐木等の業務従事者 安全衛生教育 (3~5年従事者再教育)	<ul style="list-style-type: none"> ● 講習時間:学科・実技 8:50~16:50 ● 申込:開催日の10日前まで ● 受講料:12,800円(本代含む)(振込み) ● 定員:30名(定員になり次第締め切ります。) 	ぎふ森林文化センター (岐阜市六条江東2-5-6)
			林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



コラム

(公社)岐阜県緑化推進委員会では、皆さまからご寄附いただいた「緑の募金」をもとに、県内各地で森づくりに取り組む団体の活動支援や、学校の環境緑化、みどりの少年団の活動支援などを行っています。

これらの取り組みの様子や、みどりの少年団の活動を写真や短い記事で紹介したり、地域の行事や学校の活動と連携して緑に関する取り組みを知っていただく機会を広げることで、より多くの方に活動を知っていただけるよう努めています。

しかしながら、地域の緑を守るために欠かせない大切な財源である「緑の募金」は、近年減少傾向にあります。昨年度は家庭募金の減少により、前年比で約2割の減額となり、活動団体やみどりの少年団への助成金も減少するなど、活動の継続に影響が出始めています。

3月1日から5月31日までは春募金の期間です。未来の子どもたちに豊かな緑を残すため、皆さまの温かいご協力をお願いいたします。

「森林のたより」編集委員 田中 敏隆

5月号予定

イベント情報

連載

- 山の歳時記 (249)

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵 (160)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築 (156)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

5月1日
発行

木材市場

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所 単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配
第1899回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	14,200	—	→
			16~18cm	14,200	—	→
		4 m	20~22cm	14,900	—	↗
			24~28cm	14,800	—	↗
			30cm以上	14,000	17,500	→
	ひのき	3 m	16~18cm	21,800	—	→
			20cm以上	19,500	—	↗
		4 m	16~22cm	21,300	—	→
			24~28cm	19,500	—	↗
			30cm以上	19,200	51,300	→
		6 m	16~18cm	—	—	→
		第1499回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	14,700
24~28cm	14,800				—	→
30cm以上	13,700			—	→	
ひのき	3 m		16~18cm	21,800	—	→
			20~22cm	20,500	—	→
	4 m		24~28cm	19,500	—	→
			30cm以上	19,200	93,000	→
			6 m	16~20cm	—	—
ひめこ	4 m		24~28cm	13,000	—	→
			30cm以上	15,000	44,800	→
	5 m		40cm以上	—	—	→
	くり		4 m	24cm以上	14,000	52,000
第1833回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	14,200	—	→
			24~28cm	14,700	—	↗
		30cm以上元	15,000	—	→	
	ひのき	3 m	16~22cm	21,500	29,000	→
			24~28cm	19,800	31,000	→
			30cm以上元	28,000	53,000	→
		4 m	13cm以下	12,000	—	→
			16~22cm	21,700	—	→
			24~28cm	19,800	—	→
			30cm以上元	29,000	71,000	↗
		6 m	18~22cm	29,500	—	→
		まつ	4 m	30cm以上元	—	—

*単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

スギ4m元木・尺上良材は活気のある入札で、価格は保合。スギラミナ向け3m・4m材は強含み。ヒノキ4m元木良材は入札旺盛で活気あり、価格は強含みで引き合いは強い。ヒノキ3m・4m構造材も強含み。合板向けは価格保合ながら納材順調。製紙向けバルブ材、発電向け未利用材は原木不足感が強く需要高。(岐阜)

スギは安定推移。ヒノキ並材は弱含みながら、優良材は出材少なく買気旺盛。広葉樹はサクラ、エンジュ(14cm以上無節)、ナラ(30cm以上、赤身多)の引き合い強く、堅調な動き。ホオノキは若干の弱含み傾向。高値はヒメコ4.0m×42cm@44,800円、@ナラ2.2m×36cm@51,000円、クリ2.1m×40cm@48,800円、クリ4.0m×38cm@52,000円、サクラ4.0m×30cm@40,000円、キハダ4.4m×28cm@26,500円、ヒノキ4m×50cm@93,000円(飛騨)

スギ、ヒノキともに良材への応札が目立ち、市場はにぎわい。ヒノキは4mの元木や中目良材を中心に地元工務店の引き合いが強く、相場は強含み。3m材は尺上材・役物材の引き合いが多く、強保合推移。構造材向け3m・4mは引き合い堅調ながら価格保合。2m材は尺上良材が堅調維持する一方、20cm以下材は荷動き鈍く弱含み推移。スギは全体量が少なく、4m元木・中目良材ともに不足感がみられるが、引き合い好調で価格保合継続。4m(24cm以上)構造材、3m材は品薄で強保合。6m長柱向け材(16cm~20cm)は需要堅調で好調な動き。合板向け材は価格保合ながら納材順調、ラミナ向けはスギ・ヒノキともに活発な動き継続。(東濃)

製品卸売標準価格 (2月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	68,000	(2,249)	→
	間柱	3000	105	30	1等	70,000	(662)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	76,000	(3,352)	↓
	柱	3000	120	120	特等	75,000	(3,240)	→
		6000	120	120	特等	155,000	(13,392)	→
W集 ウ成 ッ材	柱	3000	105	105	国産5層	85,000	(2,800)	→
		3000	120	120	国産5層	88,000	(3,800)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (2月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	432	↑
	コースト(目荒)	442	→
米栂	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

これってなあに? ~木材用語~

だいだんめんこうぞうようしゅうせいざい 大断面構造用集成材

構造用集成材のJAS規格で、短辺15cm以上、木口断面積300cm²以上のもの。主に木構造の商業建築や公共建築で、大スパンを必要とする際に用いられ、優れた構造強度を有する。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典